

文學の森 ベストセラーシリーズ

○第4期……………①

句集
炎心

高橋将夫

enshin takahashi masuo

既刊句集『新巻』『星の渦』からの精選句と
近詠作品とを集成した300句。

高橋将夫の俳句の軌跡を辿り、
次なる世界の展望を開く代表句集。

平成十六年

初
明
り
し
て
青
ナ
イ
ル
白
ナ
イ
ル

得
手
札
を
膝
元
に
置
く
か
る
た
か
な

風車人の来るたび回りたる

猩々の後ろに桃の花の精

春眠の途中冥府に寄りにけり

雪解けの水に魔除けの札流れ

春風に吹かれてをりし宇宙塵

春風や象牙犀角牛の角

鳥の巢に鳥あるといふ思ひ込み

鳥帰る黄道光のかなたかな

いま吸ひし花の匂ひを吐きにけり

風よ風上がれ上がれと引きにけり

春日傘ためらひがちに回リたる

とめられぬ柳絮の行方なりしかな

花の山ぐるり人間ばかりかな

春の水星の渦より汲んできし

白南風に乗り呼び出しのアナウンス

夏の夜の夢は隣の宇宙へと

鬼やんまの飛び込んで
きし鏡の間

天蚕のつむぐ記憶の糸なりし

打水の打ちもらしたるところかな

瓜番が大きな瓜に触れてをり

蚊帳のなか時空にひづみありにけり

真空のゆらぎの中の冷奴

これほどのはんざきにしてこのまなこ

触れあふも蓮の浮き葉の重ならず

考へる前に玉巻く芭蕉かな

一切を承知の白地はおりたる

涼
し
さ
の
宇
宙
に
あ
り
し
穴
と
泡

炎
天
を
来
た
り
し
母
の
寝
息
か
な

涼風のかよふへだたりなりしかな

夕風のごとくに妻とゐたりけり

まるめろと言へばこの色この形

いつぱしの韋駄天鰻なりしかな

山頂の紅葉
海辺の黄葉
かな

須弥山の紅葉
となりて燃ゆる
なり

白河に置いてきたりし秋思かな

神々の集まつてゐる花野かな

竜田姫狐日和に來たりけり

酔芙蓉大黒天のころがりし

一斉に向きを変へたる鯛かな

十三回大会（近江八幡）

銀河より舟の戻りて近江かな

冬帝を呼んで来たりし陰陽師

ぶつかつて大綿ふつと消えにけり

山
鳴
り
の
し
て
あ
る
山
の
眠
り
か
な

弥
陀
ヶ
原
握
り
し
雪
の
鳴
り
に
け
り

海鼠うごきてハンドルの遊びほど

大寒のびつくり水を注ぎたる

目隠しの鷹一点を凝視せり

雪しまき炎心しづかなりしかな

句集 炎心えんしん

文學の森ベストセラードシリーズ第4期第1巻

平成十七年十月一日 発行

著 者 高橋将夫

発行者 大山基利

発行所 株式会社文學の森

PDF 俳誌のsalon